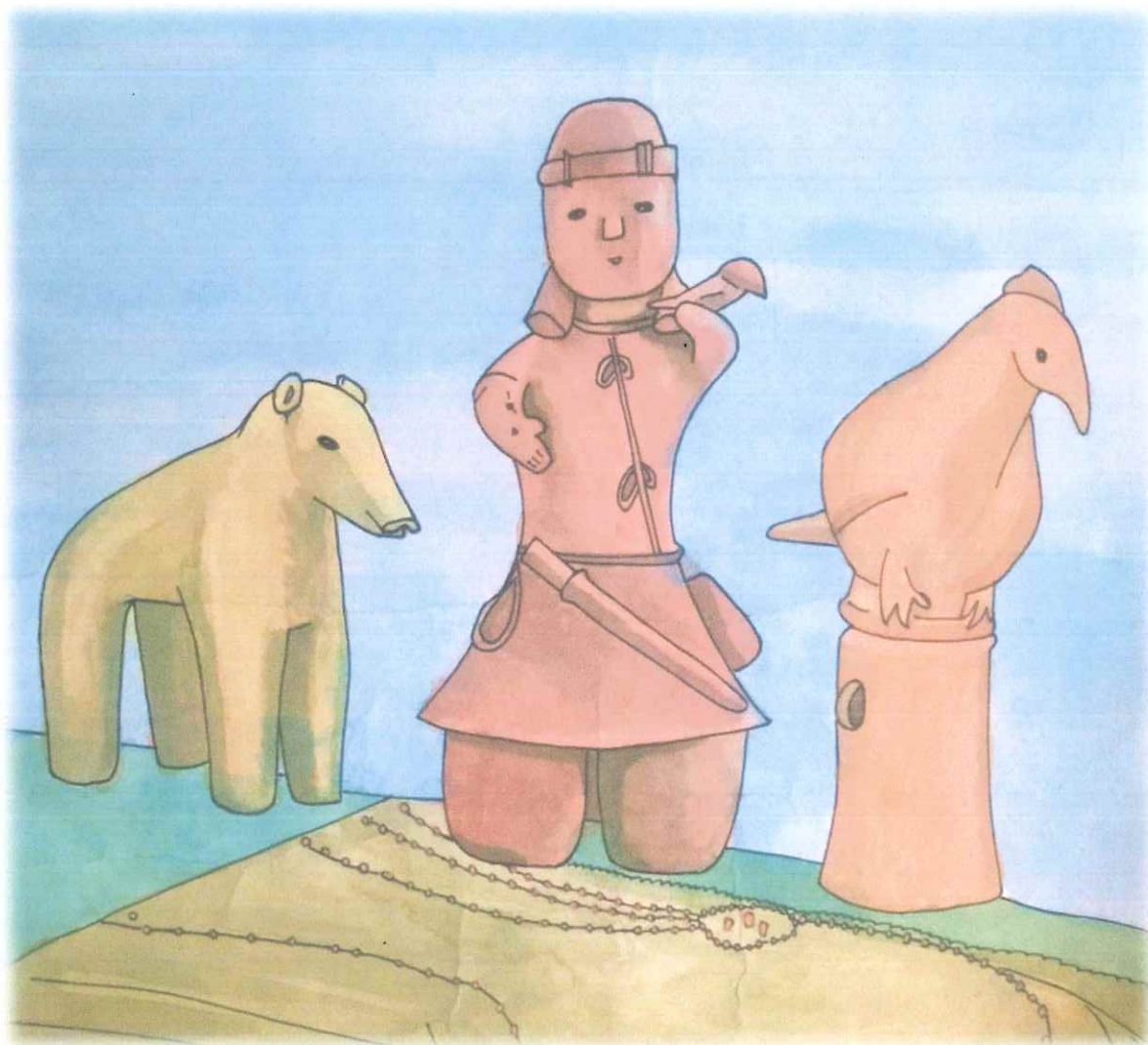


伊勢崎市内で出土した埴輪は
質・量ともに日本一と言えるか？



伊勢崎市立第一中学校

1年5組 橋本 美希

伊勢崎市内で出土した埴輪は質・量ともに日本一と言えるか？

伊勢崎市立第一中学校 1年5組 橋本 美希

1. 調査の動機や目的

1-1. 調査の動機

私は、中学校の夏休みの宿題で、埴輪と古墳の絵を描きました。その絵に描いた埴輪は、人物だけでなく鶏や猪もありましたが、埴輪にも色々な形があることを知り、とても興味を持ちました。

そして、家にあった『東国文化副読本』を読んでもみると、馬や犬など、その他にもたくさんの種類の埴輪があり、見ているだけでもとても楽しくなりました。また、たくさんの埴輪を見て、私が小学生だった頃、よく家族で群馬県立歴史博物館や赤堀歴史民俗資料館に行ったことを思い出しました。群馬県立歴史博物館に行った帰りには、近くにあった綿貫観音山古墳に行って、横穴式石室に入ったりしていました。

そんなことを思い出しながら「私が描いた埴輪は、どんな古墳から出土したのだろうか？」と思い、家族に聞いたところ、3つとも私が住んでいる伊勢崎市内で出土した埴輪だということが分かりました。でも、私が通学している伊勢崎市立第一中学校のそばには古墳がなかったため、「遠くに行かないと調べられない」と思いました。そこで、家族に聞いてみると「一中のそばにも古墳がある」ということが分かりました。確かに『伊勢崎市史 通史編1』という本を読むと、一中のすぐ東側に清音古墳群という古墳が3つもあることが分かりました(写真1-2)。

そこで、私の調査の動機は、群馬県や伊勢崎市から出土した埴輪の価値を調査して、伊勢崎市内で出土した埴輪が質・量ともに日本一と言えるかどうか調べてみたいということでした。

1-2. 調査の目的

調査の目的は、群馬県や伊勢崎市から出土した埴輪の価値を調査することとしました。具体的には、埴輪の価値を2つの観点から調査することとしました。

まず、埴輪の価値の1つ目の観点は、埴輪の価値の質です。埴輪にはたくさんの種類があるということは分かりましたが、人物や動物などの種類の埴輪は、文化財の価値としてどのような高い評価を受けているのかを調査します。

次に、埴輪の価値の2つ目の観点は、埴輪の価値の量です。価値の高い埴輪は、全国各地から出土していますが、群馬県や伊勢崎市からは価値の高い埴輪がどの程度、出土しているのかを調査します。

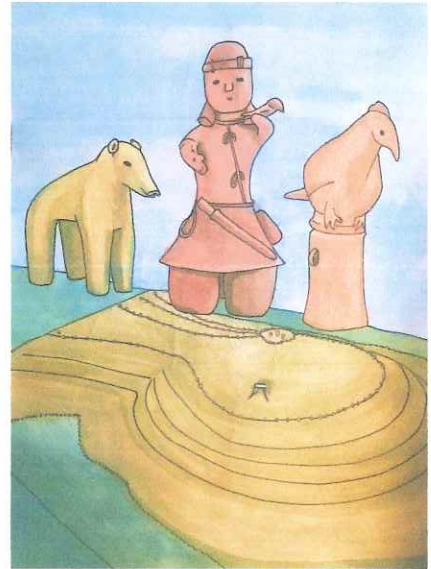


写真1-1 夏休みの宿題

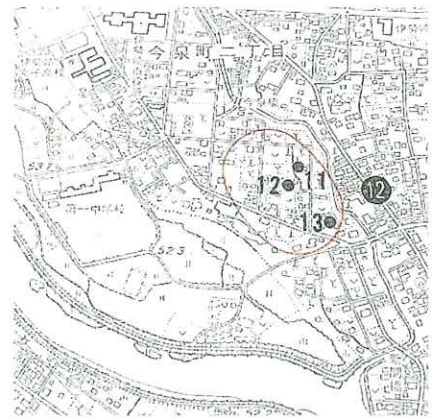


写真1-2 一中付近の古墳
(伊勢崎市史 通史編1)

2. 調査方法や内容

2-1. 調査方法

調査方法は、図2-1のとおりとしました。

まず、埴輪の見学と学習のため、群馬県内の博物館や古墳に行き、実際に埴輪を見て、現地の解説から学びました。博物館としては、赤堀歴史民俗資料館、群馬県立歴史博物館、かみつけの里博物館などを選びました。

次に、埴輪の価値の調査のため、本や博物館で入手したパンフレットなどの参考文献を調査するとともに、インターネットを活用して調査することとしました。インターネットでは、文化庁、群馬県、伊勢崎市などのホームページを閲覧し、写真やデータを収集しました。

最後に、調査した成果の資料のまとめを行いました。調査のために撮影した写真を整理するとともに、インターネットからダウンロードしたデータを基に図表を作成し、レポートにまとめることとしました。

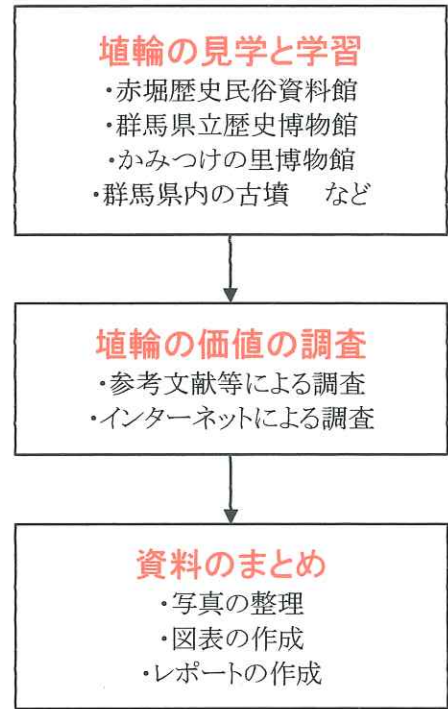


図2-1 調査方法

2-2. 内容

私は、今回の調査を進める中で、埴輪の中でも特に価値の高い、国が指定した文化財に着目することとしました。文化庁のホームページでは、この国が指定した文化財は「国指定文化財」とされており、重要文化財と国宝の2種類に分類されています。

図2-2は、私が今回の調査で閲覧した「国指定文化財データベース」というホームページです。このホームページで調査したいキーワードを入力し、検索することによって、埴輪を含めたさまざまな文化財の情報を得ることができます。

私は、このホームページを活用して、キーワード「埴輪」と「考古資料」の検索結果から、国指定文化財の埴輪についての調査結果をまとめることとしました。

検索の結果については、エクセルの表をダウンロードすることで、埴輪の名称や種類だけでなく、現在の所在地などが一覧で分かります。

しかし、残念なことに、ダウンロードしたエクセルの表では、埴輪の出土場所についての情報が分かりませんでした。

このため、埴輪の名称や所在地を基に、個々の出土場所をインターネットで調査して、エクセルの表に追加しながら埴輪の出土場所をまとめることとしました。



図2-2 国指定文化財データベース (文化庁ホームページ)

3. 調査の結果と考察

3-1. 調査の結果

(1) 埴輪の価値(質)

図3-1は、文化庁のホームページを基に埴輪の価値(質)を図にしたものです。また、5ページの表3-1は、「国指定文化財データベース」を活用して、「埴輪」と「考古資料」の検索結果をダウンロードし、出土場所を調査して追加したものです。

まず、埴輪は、図3-1のように、文化財の中では有形文化財に分類され、その中でも考古資料に属します。さらに、この中でも重要なものとして国が指定したものを重要文化財といいます。そして、この重要文化財の中でも、特に価値が高いと国が指定したものを国宝といいます。

国宝の埴輪は全国に1つだけであり、ほとんどが写真3-1に示すような重要文化財です。重要文化財の埴輪には、人物だけでなく猪や犬や鶏など動物の埴輪も指定されており、全国各地で保存されていることが分かりました。さらに、表3-1の埴輪の出土場所は群馬県が最多であり、県内で出土した埴輪の質が日本一であること、また写真3-1の全てが伊勢崎市内から出土したものであることが分かりました。

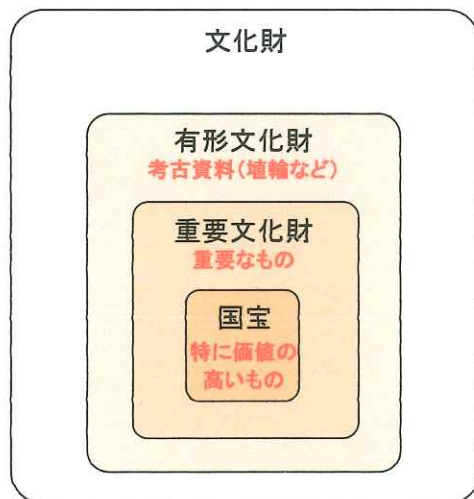


図3-1 埴輪の価値(質)



埴輪武装男子半身像
(所在地:宮城県多賀城市)



埴輪女子立像
(所在地:東京都台東区)



埴輪鷹狩男子像
(所在地:奈良県奈良市)



埴輪猪
(所在地:東京都台東区)



埴輪犬
(所在地:福岡県太宰府市)



埴輪鶏
(所在地:群馬県高崎市)

写真3-1 重要文化財の埴輪の種類(上:人物 下:動物)

(2) 埴輪の価値(量)

表3-1の結果から、出土した埴輪の価値(量)について、日本全国や群馬県内の地図を用いて出土の割合を分析しました。

表3-1の中の赤文字は、群馬県内を示しています。さらに、所在地が伊勢崎市内の埴輪を黄色セル、出土場所が伊勢崎市内の埴輪を緑色セルで表現しています。

この結果、図3-2に示すように、国指定文化財の埴輪の都道府県別の出土場所としては、群馬県内が最も多いことが分かりました。

具体的には、日本全国43箇所のうち、群馬県内19箇所ということで、全体に占める割合は44%を占めています。

したがって、国指定文化財の埴輪の量は、都道府県別では群馬県内が日本一であることが分かりました。

また、図3-3に示すように、国指定文化財の埴輪の群馬県内の出土場所としては、伊勢崎市内が最も多いことが分かりました。

具体的には、群馬県内19箇所のうち、伊勢崎市内9箇所ということで、全体に占める割合は47%を占めています。

したがって、国指定文化財の埴輪の量は、県内市町村別では伊勢崎市内が県内一であることが分かりました。

これらの結果について、もう一步踏み込んで考えてみると、国指定文化財の埴輪の全国市町村別の出土場所としては、伊勢崎市内が最も多いと言えます。

具体的には、日本全国43箇所のうち、伊勢崎市内9箇所ということで、全体に占める割合は21%を占めています。

したがって、出土した埴輪の量は、都道府県別では群馬県内が日本一、市町村別では伊勢崎市内が日本一ということが分かり、とても驚きました。



図3-2 群馬県内から出土した埴輪の価値(量)



図3-3 伊勢崎市内から出土した埴輪の価値(量)

表3-1 国指定文化財の埴輪の一覧表

番号	名称	種別1	国定指定年月日	都道府県	所在地	出土	保管施設の名称
1	埴輪家残関	重要文化財	19590627	宮城県	宮城県仙台市青葉区片平2-1-1	宮城県名取市下増田大字杉ヶ袋出土	国立大学法人東北大学
2	埴輪円筒	重要文化財	19590627	宮城県	宮城県仙台市青葉区片平2-1-1	宮城県名取市下増田大字杉ヶ袋出土	国立大学法人東北大学
3	埴輪甲	重要文化財	19590627	宮城県	宮城県仙台市青葉区片平2-1-1	宮城県名取市下増田大字杉ヶ袋出土	国立大学法人東北大学
4	埴輪男子胡坐像	重要文化財	19580208	福島県	群馬県伊勢崎市三光町6-10	福島県平田市大字神作字腰巻出土	公益財団法人相川考古館
5	埴輪男子立像	重要文化財	19580208	群馬県	群馬県伊勢崎市三光町6-10	群馬県前橋市(旧勢多郡上川湯村)出土	公益財団法人相川考古館
6	埴輪男子立像	重要文化財	19580208	群馬県	群馬県伊勢崎市三光町6-10	群馬県伊勢崎市大字八寸字権現山出土	財団法人相川考古館
7	埴輪男子立像	重要文化財	19580208	群馬県	群馬県伊勢崎市三光町6-10	群馬県伊勢崎市大字八寸字権現山出土	公益財団法人相川考古館
8	埴輪男子立像	重要文化財	19590627	群馬県	高崎市神倉町992-1	群馬県佐波郡埴輪町大字武士天神山出土	群馬県立歴史博物館
9	埴輪武裝男子立像	重要文化財	19580208	群馬県	群馬県伊勢崎市三光町6-10	群馬県新田郡埴輪町大字成塚出土	公益財団法人相川考古館
10	埴輪武裝男子立像	重要文化財	20050609	埼玉県	鴻巣市東3-8-17	埼玉県生田塚通輪窯跡から出土	鴻巣市文化センター
11	埴輪武裝男子立像	重要文化財	20070608	埼玉県	行田市本丸17-23	埼玉県行田市大字酒巻	行田市郷土博物館
12	埴輪埴輪/壺形埴輪	重要文化財	19950615	大阪府	南河内郡河南町大字東山299番地	大阪府八尾市美國町美國古墳出土	近つ飛鳥博物館
13	大阪府長原高廻り古墳群出土埴輪	重要文化財	19920622	大阪府	大阪府中央区大手前4-1-32	大阪府高廻り古墳群から出土	大阪歴史博物館
14	上野塚廻り古墳群出土埴輪	重要文化財	19850606	群馬県	高崎市神倉町992-1	渡良瀬川扇状地の西の扇端近くに位置した七基からなる古墳群から出土	群馬県立歴史博物館
15	埴輪家	重要文化財	19580208	東京都	東京都台東区上野公園13-9	東京都台東区上野公園13-9	東京国立博物館
16	埴輪家	重要文化財	19580208	東京都	東京都台東区上野公園13-9	東京都台東区上野公園13-9	東京国立博物館
17	埴輪猪	重要文化財	19580208	東京都	東京都台東区上野公園13-9	宮崎県児湯郡西都町西都原出土	東京国立博物館
18	埴輪馬	重要文化財	19580208	東京都	東京都台東区上野公園13-9	群馬県佐波郡埴輪町大字武士天神山出土	東京国立博物館
19	埴輪鞍	重要文化財	19580208	東京都	東京都台東区上野公園13-9	埼玉県熊谷市大字上中条出土	東京国立博物館
20	埴輪女子像	重要文化財	19580208	東京都	東京都台東区上野公園13-9	茨城県行方郡玉造町沖洲出土	東京国立博物館
21	埴輪女子像	重要文化財	19580208	東京都	東京都文京区本郷7-3-1	群馬県赤松郡大泉町大字古高出土	東京国立博物館
22	埴輪女子像	重要文化財	19580208	東京都	東京都新宿区西早稲田1-6-1	栃木県宇都宮市雀宮町小字十里木牛塚出土	国立大学法人東京大学 総合研究博物館
23	埴輪女子立像	重要文化財	19580208	東京都	東京都新宿区西早稲田1-6-1	埼玉県児玉郡児玉町出土	早稲田大学
24	埴輪男子跪坐像	重要文化財	19580208	東京都	東京都文京区本郷7-3-1	群馬県伊勢崎市大字八寸字権現山出土	東京国立博物館
25	埴輪武裝男子像	重要文化財	19580208	東京都	東京都台東区上野公園13-9	茨城県鹿嶋市郡島郡埴輪町青柳字不二内出土	国立大学法人東京大学 総合研究博物館
26	埴輪武裝男子立像	重要文化財	19740608	東京都	東京都台東区上野公園13-9	埼玉県熊谷市大字上中条出土	東京国立博物館
27	埴輪胎	重要文化財	19580208	東京都	東京都台東区上野公園13-9	群馬県太田市(旧新田郡九合村)出土	東京国立博物館
28	石川県矢田野エヅリ古墳出土埴輪	重要文化財	19970630	石川県	小松市原町77-8	宮崎県児湯郡西都町西都原出土	東京国立博物館
29	埴輪男子立像	重要文化財	19590627	静岡県	静岡県熱海市桃山町26-2	石川県小松市矢田野エヅリ古墳から出土	財団法人エム・オー・エー 美術文化財団MOA美術館
30	埴輪男子立像	重要文化財	19591218	奈良県	奈良県葛城郡八千代村出土	群馬県伊勢崎市波志江町出土	公益財団法人大和文華館
31	埴輪水鳥/大阪府城山古墳出土	重要文化財	20060609	大阪府	藤井寺市岡1-1-1	大阪府城山古墳出土	公益財団法人大和文華館 藤井寺市
32	埴輪牛	重要文化財	19580208	奈良県	唐古・磯者古学ミュージアム	奈良県葛城郡原本町出土	唐古・磯者古学ミュージアム
33	埴輪男子胡坐像	重要文化財	19591218	奈良県	天理大学附属天理参考館	群馬県群馬郡群馬町八幡原出土	天理大学附属天理参考館
34	埴輪武裝男子立像	重要文化財	19591218	奈良県	天理大学附属天理参考館	群馬県群馬郡群馬町八幡原出土	天理大学附属天理参考館
35	伯耆長瀬高浜遺跡出土埴輪	重要文化財	19860606	鳥取県	東伯耆郡湯梨浜町大字久留19-1	長瀬高浜遺跡から出土	湯梨浜羽合歴史民俗資料館
36	平所遺跡埴輪窯跡出土品	重要文化財	19770611	福岡県	松江市殿町1	松江市の東方にある平所遺跡の埴輪窯跡から鳥根県	湯梨浜羽合歴史民俗資料館
37	埴輪大	重要文化財	19580208	福岡県	九州国立博物館	群馬県佐波郡埴輪町大字武士天神山出土	九州国立博物館
38	埴輪馬	重要文化財	19570618	東京都	東京都台東区上野公園13-9	群馬県赤松郡大泉町大字	東京国立博物館
39	埴輪鹿形男子像	重要文化財	19411106	奈良県	奈良県奈良市学園南1-11	群馬県佐波郡埴輪町出土	公益財団法人大和文華館
40	埴輪男子跪坐像	重要文化財	19591218	大阪府	大阪府大阪市中央区大手前4-1-32	茨城県西茨城郡岩瀬町出土	大阪歴史博物館
41	埴輪男子立像	重要文化財	19591218	茨城県	茨城県鹿嶋市本郷出土	群馬県赤松郡大泉町大字	茨城県鹿嶋市本郷出土
42	埴輪男子立像	重要文化財	19580325	石川県	石川県金沢市出羽町2-1	群馬県佐波郡埴輪町大字武士天神山出土	石川県立美術館
43	埴輪武裝男子半身像	重要文化財	19400503	宮城県	宮城県多賀城市高崎1-22-1	群馬県佐波郡赤松村出土	東北歴史博物館

3-2. 考察

(1) 埴輪の価値（質）

今回の調査で表3-1を作成した結果、国指定文化財の埴輪（人物、動物）の多くが群馬県内や伊勢崎市内から出土していることが分かりました。

では、なぜこのような質の優れた埴輪が群馬県内や伊勢崎市内から出土したのか、これまで見学した博物館、古墳、資料などを基に考察します。

まず、最大の要因である一つ目の要因は、群馬県内や伊勢崎市内には、お富士山古墳に代表されるような、とても権力のある王がいたということです。お富士山古墳は、伊勢崎市内で最大の前方後円墳で、全長が125mあり、県内でも8番目の大きさです。また、写真3-2のとおり、お富士山古墳よりも北側にも、かなり多くの古墳群があったことが分かりました。赤堀歴史民俗資料館の展示資料を読むと、伊勢崎市内には、旧石器時代から近代までの遺跡が合計670カ所以上も確認されていることが分かりました。私たちの先人は、自然が造り出した地形や地質を見極めて、最適な環境を求めて暮らしていたことがよく分かりました。こうした先人が住んでいた場所から、さまざまな埴輪が作られてきたと考えられます。

次に、二つ目の要因は、王に仕えた人達もまた、優れた知識や技術を持っていたということです。写真3-3は、赤堀歴史民俗資料館で「埴輪が作られてきた歴史」を撮影したものです。動物埴輪の作成は、鶏が最も早くて4世紀頃、犬や猪や馬が5世紀頃に作成されてきたことが分かりました。『すばらしき群馬のはにわ』（群馬県立歴史博物館）の資料には、動物の埴輪の意味が詳しく説明されていました。

朝に鳴く鶏は、太陽の神を呼び戻し、夜明けを導く動物として特別視されていました。馬は、王の地位や財力をアピールするために非常に重要な動物でした。猪は、多産で豊饒の証として欠かせない動物でした。犬は、狩りをするときのパートナーとして、人のそばに居続けた動物でした。

こうした動物を埴輪で表現できる、とても力のある人がいたことが想像できます。

最後に三つ目は、優れた埴輪の質を保つことができたということです。出土した埴輪の質を保つためには、開発等によって壊されたりせず、また盗まれずに残っていることが重要ですが、こうした問題が無かったことも大きな要因として考えられます。



写真3-2 伊勢崎市の大きな古墳の分布

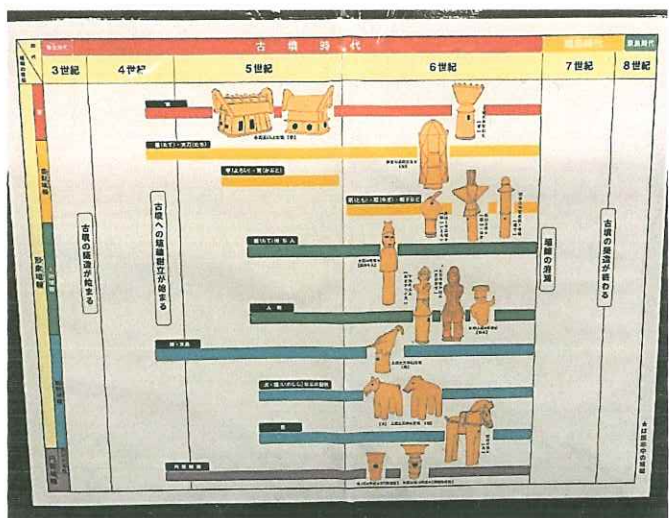


写真3-3 埴輪が作られてきた歴史

(2) 埴輪の価値（量）

今回の調査で表3-1を作成した結果、国指定文化財の埴輪（人物、動物）の多くが群馬県内や伊勢崎市内から出土していることが分かりました。この表から、国指定文化財の埴輪の所在地と出土場所の件数のみを整理したものが表3-2です。この表から分かることは「国指定文化財の埴輪については、所在地が群馬県内や伊勢崎市内になっている数は少ないものの、出土場所では群馬県内や伊勢崎市内が日本一である」ということです。では、なぜこのような量の埴輪が群馬県内や伊勢崎市内から出土したのか、見学した博物館、古墳、資料等を基に考察します。

まず、最大の要因である一つ目の要因は、群馬県内や伊勢崎市内には、多くの古墳が集中していたということです。写真3-4は、前方後円墳が集中する地域を赤堀歴史民俗資料館で撮影したものです。この展示資料には、全国の前方後円墳が集中している地域が4箇所あり、その中の1つの地域が群馬県であることが示されていました。また、全国の大型古墳の数は、奈良県、大阪府、岡山県に次いで群馬県が全国4位ということでした。別の赤堀歴史民俗資料館の解説を読むと、埴輪の主な目的は「王が生活している時の活躍ぶりや財力を示すもの。」ということでした。こうしたことから、大型古墳が集中している群馬県内では、力を示す埴輪の数も非常に多かったことが考えられます。

二つ目の要因は、豊かな生活様式があったということです。当時の馬は、現代の高級自動車くらい価値のある憧れの動物でした。こうした馬の埴輪だけでなく、猪、犬、鶏などの動物埴輪も多く出土していることから、当時は豊かな生活様式があったものと想像できます。

三つ目の要因は、古墳に残っていた埴輪の発掘が無事に行えたことです。写真3-5は、一ノ関古墳の石室です。群馬県内では、古墳時代後の発展が遅く、国の中心都市ではなかったため、土地開発が行われなかったこと、また一ノ関古墳のように部分的な開発があったとしても古墳を守り続けてきたことが多くの埴輪が残っていた要因だと思います。

表3-2 国指定文化財の埴輪の所在地と出土場所

	所在地※1	出土場所※2
日本全国	43	43
群馬県内	6	18
伊勢崎市内	4	9

※1:文化庁ホームページからダウンロード

※2:今回の調査結果

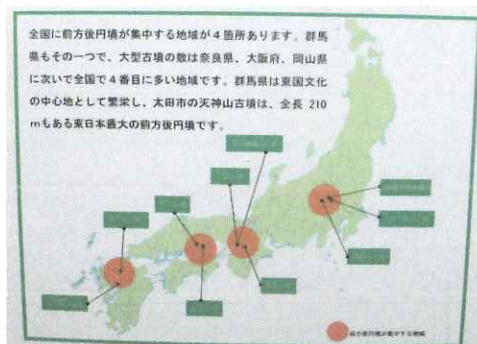


写真3-4 前方後円墳が集中する地域



写真3-5 一ノ関古墳の石室

4. 感想と今後の課題

(1) 感想

私は、今回の調査を進める中で、博物館や群馬県内の古墳を見学し、古墳や埴輪について学びました。

赤堀歴史民俗資料館へ行った際には、写真4-1のとおり大きな鶏形埴輪を見ることができました。本物のニワトリと鶏形埴輪の比較写真を見ると、昔の人の技術がとても優れていることがよく分かりました。また、この写真の鶏形埴輪の出土地は、赤堀茶臼山古墳であり、私が絵に描いた鶏形埴輪は天神山古墳から出土したものだということが分かりました。

そこで、あらためて天神山古墳に行ってみたところ、写真4-2のように「天神山古墳跡 西 重文埴輪「犬、猪」出

土地」という表示のある柱があり、とても嬉しくなりました。この場所には、古墳や埴輪の説明板はありませんでしたが、出土地が分かる貴重な柱だと思いました。この付近に王の墓があり、鶏、犬、猪の埴輪があったことを知り、私が夏休みに描いた絵の想像が膨らみました。

8月には、前橋市に住む祖母の家に行き、^{おふやま}王山古墳へ連れて行ってもらいました。この王山古墳には、^{おふやま}写真4-3のような遊具やブランコがあり、私たちが遊ぶことができるように工夫されている古墳を初めて見ることができました。

市外の古墳にも興味が湧いたので、高崎市にあるかみつけの里博物館（写真4-4）にも行ってきました。この博物館の周りには、^{ほくだん}保渡田古墳群があり、大きな^{ほらみすか}前方後円墳を見ることができました（写真4-5）。特に八幡塚古墳では、多くの埴輪が飾られていて、昔の古墳の様子が分かりました。人物や動物埴輪を並べた区画はとても興味深かったです。この並び方は、^{くかく}榛名山の噴火によって起きた^{こうすい}洪水のためにそのまま残っていたそうです。災害は怖いですが、そのおかげで貴重なものがきれいに残っていたことは嬉しいことだと思います。ある人物埴輪の腰には、小さい猪が付いていて、狩りでとったものなのだろうと思いました。そのように埴輪を見ていると、古代の人がどのように生活していたのかが思い浮かび、とても楽しかったです。また、これらの埴輪には彩色もあり、本来は色がついていたということも分かりました。そして、盾持人埴輪は、噴火の火山灰に埋まってしまったおかげで、そのまま発見されたそうです。割れたりして復元されることが多い中で、約1500年前のものがそのまま残っていることに驚きを感じました。

今回の調査の結果、国指定文化財の埴輪（人物、動物）の多くは、伊勢崎市外に保存されているものの、実は伊勢崎市内が出土地であることが分かりました。伊勢崎市内から出土した埴輪が、日本や群馬県内の埴輪の価値（質・量）に大きく^{こうけん}貢献していることが分かり、とても嬉しかったです。

不思議に感じたのは、これらが伊勢崎市内の博物館ではなく、全国各地に保存されていることでしたが、かみつけの里博物館の^{かみつけの}学芸員さんにお聞きしたところ、国の宝として東京の国立博物館にあるものや、多くの人に見てもらうために貸し出していることが分かりました。伊勢崎の宝なので、ぜひ伊勢崎にあって欲しいと思っていたのですが、理由が分かってよかったです。



写真4-1 赤堀茶臼山古墳の鶏形埴輪



写真4-2 天神山古墳跡(伊勢崎市)



写真4-3
王山古墳跡

写真4-4
かみつけの里博物館



写真4-5 猪付きの人物埴輪、盾持人埴輪

(2) 今後の課題

今回の調査で知りたかった「伊勢崎市内で出土した埴輪は質・量ともに日本一と言えるか？」については、私の調査結果からは「その可能性は十分ある」と思います。

今まで私が、写真4-2のような伊勢崎市内の古墳やそこから出土した国指定文化財の埴輪を知らなかったのは、もっと伊勢崎市内の古墳やそこから出土した国指定文化財の埴輪を知っていただく機会を増やしたり、多くの人に伝えていく方法があるのかもしれませんが、こうしたことから、いくつかの今後の課題を整理してみたいと思います。

まず、課題の一つ目は、「伊勢崎市内で出土した埴輪は質・量ともに日本一」ということを知るための周知方法です。

今後は、伊勢崎市内の古墳の場所を知らせる柱に加え、説明板があると理解が深まると思いました。伊勢崎市には、^{たじやへいざうてく}田島弥平旧宅という世界遺産がありますが、そこには説明板があり、スマホでQRコードを読み取って写真を見ることもできます。そんなことがたくさんの古墳でも可能になれば、古墳と埴輪を知ってもらえるのではないかと思います。国指定文化財に指定されている埴輪の出土地が伊勢崎市内にあることについてもアピールできると感じました。

課題の二つ目は、埴輪をより身近に感じられるようにすることです。私は赤堀歴史民俗資料館で「土器ドキクイズラリー」に参加しました。埴輪に関する難問もありましたが、展示資料を読めば正解できました。気軽に参加できるイベントを増やして、埴輪を知るきっかけが増えればと思いました。また私は、「HANIアプリ」ゲームをやっていたときに、古墳や博物館に行くと貴重な宝物が手に入って嬉しかったです。埴輪のゲームとも^{けんれい}連携できれば、さらに古墳や埴輪に興味を持つ人が増えると思います。

課題の三つ目は、古墳の見学の方法です。ここ数年の夏休みは、新型コロナの影響であまり出かけることができませんでした。しかし、今年からは新型コロナの感染拡大もようやく落ち着きはじめて、出かける人が多くなってきたように感じます。博物館だけでなく、古墳や埴輪も見学しやすくなった今、色々な見学方法が工夫できると思います。例えば、今回の調査で行った赤堀歴史民俗資料館では、入口でたくさんの埴輪がお出迎えしていました(写真4-6)。天神山古墳跡では埴輪のお出迎えはありませんでしたが、柱の付近に説明板を置いて、埴輪の種類や形を知ってもらえる工夫ができるかもしれません。また、説明板を置かなくても、柱にQRコードを表示するだけで、同じような周知ができるかもしれません。古墳の現地だけでなく、スマホや仮想空間でも気軽に古墳や埴輪に親しむことができるようにすることで、もっとたくさんの人に「伊勢崎市内で出土した埴輪は質・量ともに日本一」ということを知ってもらえると嬉しいです。



写真4-6 赤堀歴史民俗資料館の入口

参考文献

- ・群馬県『東国文化副読本』、令和2年
- ・群馬県立歴史博物館『すばらしき群馬のはにわ』、令和2年
- ・群馬県立歴史博物館『群馬県立歴史博物館常設展示図鑑』、平成29年
- ・伊勢崎市『伊勢崎市史 通史編1』昭和62年4月
- ・伊勢崎市教育委員会『伊勢崎市の文化財』、平成9年12月
- ・文化庁ホームページ「国指定文化財等データベース」<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>
- ・東京国立博物館ホームページhttps://www.tnm.jp/modules/r_collection/index.php?controller=dtl&colid=J20711
- ・群馬県立歴史博物館ホームページ<http://grekisi.pref.gunma.jp/>